

沖縄タイムス

特別号



第五回 沖縄国際映画祭

5th OKINAWA INTERNATIONAL MOVIE FESTIVAL

2013.03.23~03.30

企画・制作 沖縄タイムス社広告局



パチンコの対戦で勝つとさまざま
な景品をもらえる



スタンプラリーは長蛇の列
ができるほどの人気



ステージや出展ブース
での体験型イベントを楽
しめる「ラフピータウン」
が、宜野湾市の沖縄
コンベンションセンター
展示棟内に開場し、会場
は連日多くの人で賑わい
を見せてる。

約50の協賛・出展企業
のブースが並ぶ会場のテ
ーマは、「体験をする樂
しみを提供する街」。ブ
ースは、ラフピータウン劇
場、吉本新喜劇カブエ、
沖縄ストリートなどの工
リアに分けられ、各企業
の趣向を凝らした体験を
楽しめる。最新のパチン
コ機が体験できる
「KYORAKU」モ

ア!! サプライズらん
どでは、トレンドイエ

ンジエルなどの芸人が軽
い上り、「L, OREAL」
スタイリングアレンジブ
ースでは美容師による

スチーリングサービス。
沖縄ストリートでは、サ
イターンダギーやパイ
ンの試食販売などを実

施。800名を収容できる
ステージラフピータウ
ン劇場では記者会見や
映画紹介、お笑いライ

ブ、生配信イベントなど
が連日行われており、27
日14時からは「YNNス
テージ」が開催された。

幅広い年代の女性がヘアスタイル

に参加してもらいたい」と同ブースを

り上げ、「L, OREAL」
スタイリングアレンジブ
ースでは美容師による

スチーリングサービス。
沖縄ならではの食材がそろう「JAお
きなわ」のブース

ラフピータウン 50の出展ブース

体験型イベント大盛況

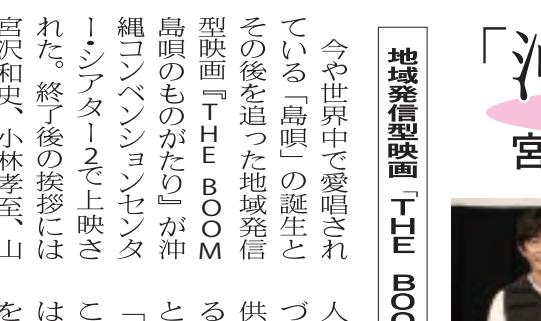
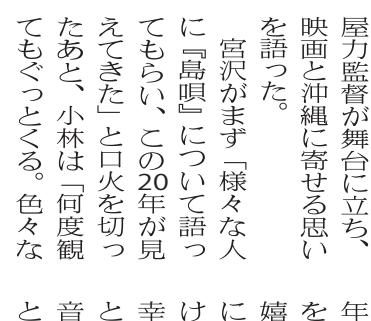
平成ノブシコブシ、オリ
エンタルラジオ、フット
ボールアワー・岩尾望が
登場すると、若い女性ら
が歓声をあげてステージ
に手振り、「異性のキ
ュンとする仕草」をお題
としたトークでおおいに
盛り上がった。

「L, OREAL」スタイ
リングアレンジブース
でスタイリングを担当す
る美容師の外間リカさん
(35)は「南城市には『編
み込みや巻き髪をする
と、お客様が喜んでく
れてうれしかった。ぜひ
多くの方に参加してもら
いたい」と同ブースを

PR。父親と来場した大
友美智子さん(19)は「東
京では、『パチンココー
ナー』の芸人の話が面
白くてずっと聞いてい
た。お父さんがスタンプ
ラリーに参加したので、
抽選の景品が楽しみ」と
期待に胸を膨らませた。
同イベントは30日まで。

宮沢和史左端のほかTHE
BOOMのメンバー、真喜屋力
監督右端が登壇した

宮沢和史左端のほかTHE
BOOMのメンバー、真喜屋力
監督右端が登壇した



地域発信型映画「THE BOOM 島唄のものがたり」

「沖縄ともっと深く」 宮沢和史、真喜屋監督ら舞台挨拶



シーサーだより⑥

今や世界中で愛唱され
ている「島唄」の誕生と
その後を追った地域発信
型映画『THE BOOM 島唄のものがたり』が沖
縄コンベンションセンター
「シシアター」で上映さ
れた。終了後の挨拶には
宮沢和史、小林孝至、山
川浩正、柄木孝夫と真喜
屋監督が舞台に立ち、
映画と沖縄に寄せる想い
を語った。

宮沢がまず「様々な人
に『島唄』について語つ
てもらい、この20年が見
えてきた」と口火を切つ
たあと、小林は「何度も
ぐつぐつとくる。色々な

人から感想を聞けて勇氣
づけられた」、山川は「子
供たちが三線を弾いてい
る感動的なシーンがずっと
と続けばいい」、柄木は
「映画を観て再認識した
ことや発見が多く、今後
はもっと強いメッセージ
を届けられると思う」、監
督の真喜屋は「100
年、200年後の読谷村
を見据えた作品になつて
嬉しい」と語った。最後
に宮沢が「20年間歌い続
けられたのは奇跡であり
幸せなこと。沖縄とともに
深く付き合い、新たな
音楽を創っていくたい」

宜野湾のビーチステージがラベ
ンダーブルーに染まるころ、ゆつ
くりと巨大スクリーンが起き上がり
る。スイスから輸入された世界最
大級の野外映写装置オープニングア
ンスクリーンだ。▼そばで見ると、
ドリンクを片手に大迫力の映像と
音響に包まれる。家でのじデオ鑑
賞では絶対に味わえない星空の解放感と圧倒的
なスペクタクルだ。今回は創業90周年を記念し
てハリウッドメジャーの一つ「ワーナー・ブラザ
ーズ(以下WB)」が5本の上映作品を提供した。▼
初日に新作『ジャックと空の巨人』(2013)
以降『ダークナイト』(08)『俺たちに明日はない』
『A・I』(01)が上映される。WBは1923
年、ハリウッドに誕生し、数々のヒット作を送
り出してきた名門中の名門。▼初のトーキーの
大ヒット『ジャズ・シンガー』(1927)、『風と
共に去りぬ』(39)、『ガサブランカ』(42)、『マイ
フェア・レディ』(64)、『ダークナイト』(08)、『バ
ットマン』(89)、『ハリー・ポッター』シリーズ(01
~07)。映画史を飾るキラ星のごとき大作がライブ
ラリーに並ぶ老舗だ。▼最近は日本映画に本格
的に乗り出し『デスノート』(06)などの
大ヒットを生んだ。生
んでいる。生存競争の激
しいハリウッド
でサバイバル
してきた波乱
万丈のWBの
歴史こそ、今
後の映画祭の
貴重な指針と
なるかもしだ
い。(麻生香太郎)



40年以上、映画業界に
下さり。
—審査の基準を教えて

地元根ざした映画祭に感動

人がキモになります。あとは国際映画祭では新しい才能を見つけることも大切な仕事の一つです。

人は?
一気になった日本

これがだけ地元のコミュニティに根ざしている映画祭を見たのは初めてです。とても大切なことだと思います。しかも地元の人たちと一緒に映画や

CMも作っている。芸人の方たちがやっているワクシショップも素晴らしく試みです。あと、あなたにたくさん的人が集まつた長いレッドカーペットも私にとって初体験でした。とても感動しました。

—日本映画をどうご覧になつてますか?

昔からロサンゼルスの日本人街にある東宝の映画館に通っていました。

黒澤明監督のモノクロ作品も大好きです。三船敏郎主演作品や『座頭市』シリーズも大変興味深かったです。

「Laugh部門」
「Peace部門」の審査委員長を務めるジョエル・シムカーに話を聞いた。『バットマン・フォーエヴァー』『オペラ座の怪人』などを手掛けたハリウッドの巨匠だ。

いて思ふことは、映画を完成させた人全員が賞を得るべきだということです。悪いものをつけろうとする監督なんていないのですから。

そのうえで審査する際は、自分を監督の立場に置いてみます。この映画祭はテーマが決まっているので「おもしろいから」と思ふべきだということです。悪いものをつけろうとする監督なんていないのですから。

CMも作っている。芸人の方たちがやっているワクシショップも素晴らしく試みです。あと、あなたにたくさん的人が集まつた長いレッドカーペットも私にとって初体験でした。とても感動しました。

—インタビュー
ジョエル・シムカー氏(「Laugh部門」「Peace部門」審査委員長)

左から、アーティ・モーガン監督、エル・ベラスコ、武田幸三



「拳の西部劇」デスマッチ

元格闘家・武田幸三の初主演映画『デスマッチ』が27日、沖縄コンベンションセンターで上映された。過剰防衛で殺してしまった男の妻子の借金を返すためストリートファイターアンド闘う元傭兵の姿を全編フィリピンロケで描いたアクション作品。舞台挨拶では「スタッフ&キャストが命を懸けて取り組んだ作品。撮影は憧れていて「世界チャンピオンと共に演でて光榮です!」。アーティ・モーガン監督は「これは拳の西部劇。いわば武田幸三版『シェーン』です」と、それぞれ作品への熱い思いを語った。

元格闘家・武田幸三の初主演映画

打撲、出血の連続でした。が、その方が自分、燃えますので」と武田。ヒロインを務めたフレリピンの舞台女優エル・ベラスコは、アクション映画に憧れていて「世界チャンピオンと共に演でて光榮です!」。アーティ・モーガン監督は「これは拳の西部劇。いわば武田幸三版『シェーン』です」と、それぞれ作品への熱い思いを語った。



桜坂がライブハウスに

藤井隆らがホスト役

80年代から90年代の洋楽をカラオケで楽しむ音楽ライブイベント「Like a Record round! round! round!」が27日夜、那覇市の桜坂劇場で開催された。

自他共に認める洋楽好きの藤井隆、椿鬼奴、レイザーラモンRG=写真=がホストを務める本イベント。彼らが登場し、ポン・ジョヴィ、ワム!といった人気グループのヒット曲を披露すると、満員の会場は大興奮。

さらにこの日はバッファロー吾郎、桂三度、しづるといった音楽好きな芸人たちも応援に駆けつけ、ジャンルを問わず幅広いカラオケ曲を披露。

会場内は大きな手拍子とともに大合唱となり、大盛り上がりとなつた。きょうの20時半からは、同じく桜坂劇場で同イベントの第2夜が行われる。

「笑琉門ステージ 沖縄芸人ベストネタショー」

沖縄芸人が勢ぞろい 方言ネタに“大爆笑”

「沖縄から全国へ」をテーマに昨年の12月に放送されたテレビ番組「笑琉門」と沖縄国際映画祭がコラボレーションした「笑琉門ステージ 沖縄芸人ベストネタショー」が27日、宜野湾市のビーチステージで開催された。

「笑琉門」は、沖縄芸人たちの中から、眞のお笑い王者を決定する特別番組。この日のステージでは、同番組で優勝した初恋クロマニヨン=写真=をはじめとした14組の沖縄芸人たちがネタを披露した。

ローカル色の強いネタ、方言が強く出たネタなどで会場は大盛り上がり。一方、ゲ



ストとして登場した関西出身のブラックマヨネーズ(小杉竜一、吉田敬)はネタの意味が分からずにボケと/orするひと幕も。吉田が開始前に「今日は厳しい仕事になりそう」と心配していた通り、この日の二人は終始、個性豊かな沖縄芸人たちにタジタジとなっていた。

特別上映「日本のコメディ」「世界のコメディ」

高平哲郎セレクト 26日~コンベンション



27日は世界中の喜劇人にリスペクトされている。笑つていいとも!の生みの親である笑いのソムリエこと高平哲郎=写真右端=がセレクトした特別上映『日本のコメディ』世界のコメディ』が26日よりコンベンションシアター・シスター3で上映されている。上映前には毎回、よしもと芸人が高平を迎えてのトークショーも催されている。

全篇を覆う不思議なギヤグや、徹底した樂屋才子を楽しんでいただきたい(高平と作品の魅力をわかりやすく観客に伝えていた)。

ボブ・ホープ&ビング・クロスビー主演による『バリ島珍道中』などが上映。『珍道中』シリーズは全7作作られていました。